



2月8日 撮影

第三十二回

三遠南信サミットin東三河

【平成六年から毎年、五十七市町村と三県、関係の国機関、経済団体が一堂に会して三遠南信地域の将来像を語り、実現のための取り組みの具体化を目的に開催】



一月二十七日、三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) は豊橋市内

のホテルアソシア豊橋、穂の国豊橋芸術劇場、ホテルアークリッツ豊橋の三会場が開いた。三河・南信州・遠州の三圏域などから四百四十四人が集まり、「地域の強靱化を考える」連携の再確認をテーマに意見交換、共働のきっかけを探った。

この会議には、鞍掛山麓千枚田保存会、三遠南信住民ネットワーク協議会(東三河代表幹事)として、小山舜二は午前中の住民セッション、午後の第二分科会 多様な主体で取組む「広域的な共助」についてに参加、その要約を纏めると、昨年一月の

能登半島地震をはじめとする地震が各地で頻発し、南海トラフ巨大地震が三十年以内に発生する確率が八割程度に引き上げられた状況下、防災と減災を柱とした持続可能な地域づくりを考え、共助の基本となる地域コミュニティや官民連携、広域連携についての議論を目指すことをテーマに意見交換した。

「住民セッション」には三十五人が参加し、「防災と減災につながる地域コミュニティづくりと三遠南信連携」をテーマに東三河の四組による事例発表があった。

① 東栄町のプロ創作和太鼓集団「志多ら」代表取締役の大脇聡さん

は、三十世帯の東菌目地区で暮らす事例発表では、台風の影響で通行止めた道に道を通す必要があり、復旧させた経験を振り返り「災害を自分ごととして考え、防災意識を常に持ち、知っておくことが防災の一番肝心である。祭りなどの近所付き合いは過疎地域で暮らす人にとって、心の安心材料にもなるのではないか」と発表した。

大脇さんの事例発表の中で、過去に雪害で孤立したことを契機に集落自立(生活道路確保)を視野にグライダー(建機)を集落で購入し、非常時対策を講じていることに興味を得た。

② 新城自然エネルギー事務局長の佐藤典生さんは、学校など公共施設の屋根を借りて太陽光発電パネルを設置し、非常用電源を設置の事例を報告。

意見交換

意見交換で私(小山舜二)は、奥三河、南信州、北遠州など、中山間地のほぼ全域が森林率八十割を超す限界集落で小学校は廃校、公共施設も住民減少からほとんどが撤退。災害時の避難場所(ハザードマップ)も校区外の遠方(我が家から約七キロ)が避難場所に指定されており、現状、山間地の集落は崖崩れ、地滑り地帯に指定されている箇所が多く、災害、緊急時の避難は「絵に描いた餅」に等しいと発言。また、平日頃の集落コミュニティの大切さ、インフラ対策として各戸に発電機の設置等々を提案した。

第二分科会の冒頭でSENA会長の中野祐介浜松市長は「大規模災害に備えて地域を強くする必要がある。安心して暮らせる三遠南信を目指し、新たな連携の道筋を見出せたら」と挨拶。

【知っ得】

三遠南信自動車道は、長野県飯田市の中央自動車道を起点として、静岡県浜松市浜名区引佐町に至る延長約100kmの高規格幹線道路と中央自動車道、新東名高速道路と連結し、三遠南信地域の交流促進、連携強化および奥三河・北遠州・南信州地域への高速サービスの提供、災害に強い道路網の構築、地域医療サービスの向上とともに、これら地域の秩序ある開発、発展に寄与する重要な道路である。

道路法第46条第3項の規定で延長5000m以上の長大トンネルは危険物を積載する車両の通行を禁止されているが、三月二日に完成式が行われる青崩れトンネルは4998mでタンクローリーの通行が可能である。(恵那山トンネルは上り線8649m、下り線は8489mでタンクローリーの通行不可)。

飯田市南信濃く浜松市天竜区水窪町間の移動は現在、約四十分を要する兵越峠越えのルートしかないが、青崩れトンネルの開通後は七分と移動時間が劇的に短縮されるなどのメリットが大きい。

第三十三回三遠南信サミットは長野県飯田市で開催予定。

J A愛知東こども農学校 開校二十周年記念式典

小学生に食と農の大切さを伝える。J A愛知東の体験イベント「こども農学校」の二十周年記念式典が二月一日、J A本店であり、本年度の参加児童や有教館高校などの関係者ら約百人余りが出席した。



学校長の海野文貴組合長は「ご飯をいただく前に農家や父母に感謝する子供に育ってほしいと願い、これからも続けていく」と挨拶。来賓の元組合長河合勝正さんは平成十七年、長野県北信州のみゆき農協を視察、そこで、子どもたちの活気にあふれ、はつらつとした姿に感動。

「子供たちが農業への関心を抱くこと、また職員も農業に直接携わること、農協職員本来の資質向上に繋がることを視野にこども農学校開校に至った。」と挨拶があった。

開校二十周年記念講演は内閣府地域活性化伝道師(鞍掛山麓千枚田保存会長)小山舜二が「地域(むら)の宝」く四谷の千枚田 地域活性化に向けた取り組み」と題してスライドと配布した資料をもとに四谷の千枚田を中核とした地域(むら)づくり三十四年を振り返り、講演した。続いて、二十年間の活動を映像で振り返った後、昼食ではこども農学校の修学旅行で恒例のカレーライスを味わった。こども農学校には新城、設楽、東栄、豊根の四市町村の小学三年生く六年生が一年を通じて米や野菜の植え付け、収穫などを体験。これまで延べ千三百十六人が参加、卒業した。卒業生には農業従事者や農協職員もいるという。

愛知県副知事千枚田を訪問

一月三十日、牧野利香愛知県副知事が四谷の千枚田を訪問。その対応をさせていただいた。

牧野副知事は初めて見る冬枯れの千枚田を見て、「緑鮮やかな時期に再度訪れたい」と、お言葉も掛けられた。副知事には「生物多様性国際会議(COP10)の愛知県・名古屋市長の里山として貢献したこと、また、COP10を契機に住民が生活環境を再認識、洗剤、生活雑排水など、環境意識の高揚のきっかけとなった。」

などと説明。副知事は今回のCOP10に参加したことをお話された。

稲作勉強会

二月初旬ごろ、お待ちしています。二月七日、連谷会館において令和六年度 中山間地域等直接支払制度四谷集落協定構成員(村雲伸一代表)の稲作勉強会がJ A愛知東営農部営農センター高木勤係長を講師に開催された。

高木係長は集落協定五期加入から毎年、稲作勉強会の講師に招き、四谷の千枚田の豊作に寄与して頂いているベテランです。

今回は稲作情報く昨年産を振り返りく」と題して丁寧な説明がなされた。まず、昨年は収量の低下や、白未熟粒の多発による品質の低下が多く見られた。主な原因として一、長期的な高温の影響①開花時の高温(開花時に三十四く三十五℃を超えるると不稔粒が増加する)②出穂期以降の高温(登熟期間中に平均気温が二十七℃を超えると登熟不良・白未熟粒が増加する)二、紋枯病の発生による、登熟不良・白未熟粒の助長(高温による紋枯れ病の発生が新城などの平坦地では圃場全面が枯れ上がった田んぼが見られたが、千枚田は中山間地で高温による紋枯れ病の被害は無かった)三、中干については圃場の土中の硫化水素を放出する機能があることから、実施を望む。以上概略

ホットなお誘い

地元鳳来寺小学校五年生は校外学習の一環として四谷の千枚田で

稲作体験や自然観察などを学習の場としている。本年も学習発表会(感謝する会)が二月十四日に行われる。その子どもたちの学習の成果発表会にお誘い頂いた。招待文「いつも田んぼのことを教えてくださりありがとうございます。代かきの時に楽しくなりすぎてどろどろで泳いだことと、小山さんと手をつないで足踏みしたことが一番の思い出です。学習発表会で四谷の千枚田のことを発表するのでぜひ来て下さい。五年 梶丘月愛



行 令和七年二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文 責 小山舜二